

図書館だより



no.238

2022(令和4)年11月15日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fcs.ed.jp/>



展示のご案内

〈企画展示〉

令和4年度 まほろん移動展
「戦後ふくしまの考古学」



—福島県学生考古学の発足から福島県史の刊行まで—

期間:11月30日(水)まで

場所:企画展示コーナー

戦後まもなく県内の高校生を中心に発足した福島県学生考古学会や福島県考古学会、その後の『福島県史』刊行頃に至るまでの昭和20年代半ばから昭和40年代にかけての福島県の埋蔵文化財保護の取り組みを、史料や出土品から振り返ります。

〈ミニ展示〉

「東日本大震災福島県復興ライブラリー
出張展示セット」

期間:12月27日(火)まで

場所:センターホール 平台展示コーナー

今年度新たに追加した2種類の東日本大震災福島県復興ライブラリー出張展示セット(「農林水産業と復興」、「新しい産業と復興」)を展示します。

「亜欧堂田善 ～行政資料を中心に～」

期間:12月7日(水)まで

場所:センターホール

「亜欧堂田善」に関する資料を展示します。

イベントのご案内

第5回 福島を生きる講座
「戦後ふくしまの考古学」

—福島県学生考古学会の活動から—

講師: 廣川 紀子 氏

(福島県文化財センター白河館 専門学芸員)

日時:11月19日(土) 14:00～15:00

会場:福島県立図書館 第1研修室

定員:先着20名(事前申込制)

戦後まもなく昭和20年代に設立した「福島県学生考古学会」によって調査された、県北地区の遺跡(矢細工遺跡、音坊遺跡、宇輪台遺跡、上岡遺跡等)についてご紹介します。

〈申込方法〉

以下のいずれかの方法でお申込みください。

- ・福島県立図書館へ電話(024-535-3220)
- ・直接来館(総合案内カウンター)
- ・福島県立図書館Webサイトのフォームで登録

「世界のことばで おはなしかい」



講師:李 智恵 さん(韓国出身)

ブラッド マシュー ウィルソン さん

(ニュージーランド出身)

日時:12月10日(土) 11:00～11:40

会場:福島県立図書館 第1研修室

定員:先着20名(事前申込制) ※5歳くらいから

日本語と韓国語と英語で絵本を楽しみます。

〈申込方法〉

以下のいずれかの方法でお申込みください。

- ・福島県立図書館へ電話(024-535-3218)
- ・直接来館(こどものへや)

年末年始の休館のお知らせ

令和4年12月28日(水)から

令和5年1月5日(木)まで休館します。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『粘土で作る!いきもの造形 恐竜編』 竹内 しんぜん/著 ホビージャパン 2022.5 751.4/ク 225

今年の夏、完結編の恐竜映画も大ヒット。子どもから大人まで昔から人気のある恐竜を、自分で作ったら楽しそうです。しかしこの本、粘土とは思えないあまりに完成度の高い造形。それもそのはず、著者は博物館に展示されるほどのプロ。製作は、骨格標本や皮膚の化石、現代の似た動物などを観察するところから始まるのだそうです。

使用する材料や道具、製作工程が丁寧に紹介されていますので、挑戦するもよし、作った気分でアートブックとして楽しむもよし、の1冊です。

『富士山測候所のはなし 日本一高いところにある研究施設』 佐々木一哉, 片山葉子, 松田千夏, 土器屋由紀子/編著 成山堂書店 2022.7 451.2/ク 227

日本を代表する名峰、富士山。芸術や信仰にも大きな影響を与え、世界文化遺産にも選定されました。

そんな富士山に「富士山測候所」という研究施設があることはご存知でしょうか。一度は役目を終えたとして無人となりましたが、現在はNPO法人によって運営されています。本書では富士山測候所で行われている大気環境の監視、微生物の観測、噴火予知研究、高所環境が人間に及ぼす影響の分析など、富士山という環境ならではの多彩な研究が紹介されています。

誰もが知っている富士山の知らない一面を知ることができる1冊です。

『中国パンダ外交史』 家永 真幸/著 講談社 2022.10 319.22/イ 22X

パンダが日本にやってきてから今年で50年。ふわふわとした毛並みに、たれ目のようにも見える顔の模様。パンダは今でも動物園のアイドルです。

本書は、そんなパンダを通してみる中国の近現代史です。中国がパンダという生き物をどのように活用してきたのか、「パンダ外交」の様子から近年の中国国内の状況までわかる1冊です。

児童・児童図書研究

『絵本のつぎに、なに読もう? 幼年童話と過ごした日々』 越高綾乃/[著] かもがわ出版 2022.6 J909.3/コ

子どもが自分で本を読めるようになる頃、絵本と物語の橋渡しとして出会うのが幼年童話です。幼年童話ほどの世代でも楽しめますが、物語の登場人物と年齢や状況が近い年代に出会うとより強い共感を得られ、大人になってからも当時の気持ちを思い出したり、懐かしんだりするこ

とができます。この本では、著者が読んできた幼年童話の中から、特に思い出深いものや著者の幼少期に影響を与えたものが紹介されていきます。

子どもたちへ本を手渡す際の参考になる1冊です。

雑誌・新聞

名作マンガの内容を取り上げた雑誌の特集が多く組まれています。こうした特集のなかから、最近取り上げられたものをご紹介します。

『芸術新潮』 Z705/G1/ 2022年9月号 (第73巻第9号)

特集 『『ベルサイユのばら』の真実』

『Illustration』 Z726.5/I2/ 2022.9月号 (通巻第235号)

特集 「イラストレーションとマンガ」

『ユリイカ』 Z911.5/Y16/ 2022.11月号 (第54巻13号, 通巻796)

特集 「今井哲也 『ハックス!』『ぼくらのよあけ』『アリスと蔵六』…マンガを夢みる」

地域

『d design travel 30 福島』 D&DEPARTMENT PROJECT 2022.5 L291.09/D5/1

個性的で愛嬌のある赤べこの表紙が目を引くこの本は、「デザインの目線」で編集された観光ガイド「d design travel」シリーズの福島県版です。「ロングライフデザイン」をテーマに活動するD&DEPARTMENT PROJECTが「長く続くもの」、「その土地らしいもの」、「本当に感動したもの」を選び、紹介しています。紹介されているものや場所・人は、様々な視点から取り上げられており、エピソードも豊富で、読みものとしても楽しめます。今まで知らなかった福島の新たな魅力に出会えるかもしれません。

『空を駆ける』 梶 よう子/著 集英社 2022.7 L913.6/K87/1

今なお、読み継がれる児童文学に『小公子』があります。その翻訳をした若松賤子は会津藩士の子として生まれました。

戊辰戦争後の混乱の中、ひとり横浜の女学校に預けられた少女は、キリスト教と英米の文学に出会います。文明開化にあっても女に学は必要ないと言われた時代に、女性の「自由」を追い求めることこそ自分の役目とし、女子教育、さらに児童文学と新たな試みへ挑戦していきます。肺病に苦しみながら、教師、翻訳家、母として、明治期を駆け抜けた女性の一代記を鮮やかに描き出します。